

クラス	Q103	担当教員	今井 理恵
テーマ	特別な教育的ニーズのある子どもと共に学ぶ		
著書・論文 研究課題等	<p>(著書)</p> <ul style="list-style-type: none"> 『発達障害児のキャリア形成と授業づくり・学校づくり』、共著、「生活指導、学級づくりを核としたキャリア形成の方法」 pp.17-25、黎明書房、2011. 『特別支援教育を変える授業づくり学級づくり 1、芽生えを育む授業づくり・学校づくり』、共著、「授業を通じた人間関係力の形成」、pp.45-57、明治図書、2009. <p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「インクルーシブ教育実践の理論的枠組み—イギリスにおける Inclusive Schools 論に着目して—」、『教育方法学研究』35号、日本教育方法学会、2010. 「発達障害児の学習への参加と共同を視点としたカリキュラム開発の枠組み」、『子ども発達学論集』、2013. 		
ゼミナール概要			
キーワード：特別な教育的ニーズ、発達障害、インクルージョン、学習の共同化			
<p>目的、内容、方法、授業計画等：</p> <p>特別な教育的ニーズを有する子ども（発達障害児等）の子ども理解の方法や、特別な教育的ニーズに応答する教育のあり方について研究します。</p> <p>今日の学校教育において、特別な教育的ニーズを有する子どものものの見方や行動へのこだわりの理由、背景についてその子どもと関係する周囲の子どもたちや教師（大人）が共に考え理解しあうことが不可欠です。このような子ども理解を基本にして、特別な教育的支援と配慮を必要とする子どもと、他の子どもたちとのつながりの世界をつくりだしていくことが重要な課題です。</p> <p>個々の子どもの発達要求、学習要求から生じる特別な教育的ニーズに沿った個別指導をしていくことはもちろん重要です。しかし同時に、学校や学級において集団で学び合ったり遊んだりしながら、子どもたちがお互いに育ち合うことを十分に保障していく子ども集団づくりを志向する教育実践が必要です。</p> <p>そのためにも、子どもたち一人ひとりが排除されることなく、お互いの差を認め合い、多様な他者とのつながりの中で、共同的にかかわり合えることを支える教育を追求することが求められます。</p> <p>子ども一人ひとりが学習と生活の中でどのような困難を抱えているのか、学習と生活を通してどのようなことがうれしかったり、つらい思いをしているのか、どのようなことに気づいているのかなど、子どもとの具体的な関わりを通して応答できる教師のあり方についても深めていきたいと思えます。</p> <p>ゼミでは学生の研究関心にできるだけ寄り添った形で進めていきたいと考えていますが、1. SENのある子どもの生活現実をよみひらく、2. 子どもの生きづらさと向き合う、3. 子ども観を問い直す、4. 特別なニーズ教育について認識を深める、5. SENのある子どもの学びについての現状と課題を探る、6. 「共同的な学び」のあり方について追求する、などの学習課題についても積極的な研究関心を持って取り組んでいただくことを望んでいます。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>特別な教育的ニーズは、障害を持つ子どもはもちろんのこと、障害の有無にとどまらずに、いじめ、不登校、貧困等、さまざまな課題や生きづらさを抱える子どもたちが有しているものです。</p> <p>教師を目指す方、子どもの教育に関わる仕事がしたい方は、子どもたちの持つ特別な教育的ニーズに教育実践を通して応答していくことが求められます。今日の教育のあり方について改めて問い直し、発達障害、いじめ、不登校、貧困といった現代的な教育課題について、特別な教育的ニーズ、インクルージョンといった視点から教育について共に考えていきましょう。</p> <p>ゼミは学生が主体となって学びと活動をつくりだしていく場です。問題意識を持って研究テーマを設定し、積極的にゼミ活動に参加することを期待しています。</p>			